

議 会 だ よ り

松 崎

No. 134
令和4年2月10日

「岩科大峠からの富士山」

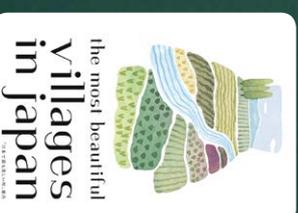
《主な内容》

第4回定例会（12月24日～12月27日）

- 一般会計補正予算など..... 2
- 町政を問う 一般質問に6議員..... 4



議会だより、定例会一般質問動画は松崎町議会ホームページでも視聴可能です。



松崎町は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。

令和3年12月定例会

令和3年第4回定例会が12月24日から27日までの4日間で開催されました。

今回の定例会では、一般会計補正予算など11議案について審議を行い、いずれも原案のとおり可決・承認しました。

一般会計

補正予算

補正予算(第8号)は、固定資産税の課税誤りに伴う町税過誤納付金還付金、新型コロナウイルス接種に係る感染症対策事業費、新型コロナウイルス感染症に伴う事業者支援に係る温泉事業会計補助金、町道真磯線改良工事、避難所(旧岩小)トイレ改修工事などを増額する。一方で、伊豆まっすぎ荘事業会計貸付金元利収入を減額するなど、歳入歳出にそれぞれ1億7272万9千円を追加し、補正後の予算額を42億1289万4千円(4.3%増)とした。

また、追加議案として

提出された補正予算(第9号)では、子育て世帯への臨時特別給付金を増額し、歳入歳出にそれぞれ2593万4千円を追加し42億3882万8千円とした。

も改修すべきではないか。

答 総務課長 避難所を開設する際、確実に使用される1階2階部分を最優先に改修するもの。

今後、避難所運営にあり必要性が生じるようであれば検討していく。

問 まつぎ荘の貸付金収入2600万円あまりが減額されているが、財源不足の対策はどのようなものか。

答 総務課長 まつぎ荘貸付金収入は、本年度予定していた全額が見込めなくなったため、歳出に対応する財源として一般財源を充てることとなる。

問 若者のまちづくり支援事業の内容と今後の展開はどのように考えているのか。

答 企画観光課長 若者のまちづくり支援事業では、これまで伊豆半島太鼓フェスティバルに取り組んできたが、今年度は

新型コロナウイルスで中止となったため全額減額となった。

また、本実行委員会は、本年度をもって解散することとなったため、来年度以降は「まちフェス会議」という形で町内のイベントを支援する。

問 新型コロナウイルス3回目のワクチン接種にweb予約が導入される。今後の業務でも同様の予約体制が見込まれると思うが、役場の体制はどうしていくのか。

答 町長 今後、自治体DXの対応の中で体制をはじめとするさまざまな検討をして行くこととなる。県のデジタル戦略担当に相談をしながら進めていく。

委託費や人事異動に伴う職員給与費などの支出見込み減により515万9千円の減額とした。

◎温泉事業会計補正予算(第1号)

収益的収入において、新型コロナウイルス感染症対策に伴う温泉使用料の減免により292万6千円の減額。営業費用を職員給与の減および減価償却費の増により6万円の増額とした。

専決処分の承認

◎専決処分の承認を求めることについて(補正予算第5号)

松崎町議会議員の辞職に伴う松崎町議会議員補欠選挙に対応したものの。

その他の補正予算

◎水道事業会計補正予算(第1号)

収益的支出において、

◎専決処分の承認を求めることについて(補正予算第6号)

新型コロナウイルス感染症対策関連事業事務

(3) 回目ワクチン接種に係るシステム改修及び成人式参加者へのPCR検査補助)に対応したものを。

◎専決処分の承認を求めることについて(補正予算第7号)

新型コロナウイルス経済対策事業事務(子育て世帯への臨時特別給付金)に対応したものを。

条例

◎松崎町廃棄物処理施設周辺整備基金の設置、管理及び処分に関する条例の一部を改正する条例

雲見地区集会施設建設等の事業財源に充てるため、松崎町廃棄物処理施設周辺整備基金2091万5千円を取り崩すもの。(基金残なし)

◎松崎町国民健康保険条例の一部を改正する条例

出産育児一時金の支給額の見直しに関する健康

保険法施行令等の一部を改正する政令が令和3年8月4日に公布されたことにより松崎町国民健康保険条例を改正するもの。

◎松崎町消防団条例の一部を改正する条例

国において消防団員の処遇の改善のため消防団員の報酬額についての基準が示されたことを受け、条例で定められている消防団員の報酬額を改正するもの。

人事

◎固定資産評価審査委員会委員の選任について

固定資産評価審査委員会委員石田博之氏が令和4年1月21日で任期満了となるため、再任することについて同意したものを。任期は、令和4年1月22日から3年間。

新議員紹介

令和3年11月28日に執行された町長選挙に併せ、町議会議員補欠選挙が行われ、武田勝彦氏が当選しました。



武田勝彦 議員

「アイデアと実行力」

少子高齢化により松崎町の人口減少は急速に進んでいます。

このままでは、学校がなくなり、祭りもなくなり、農地が荒れるなど悲惨な将来が待ち受けています。

この解決には、アイデアと実行力が必要です。

任期は短いですが解決策の提案に全力で努めます。

第4回定例会の賛否状況一覧

議案番号	議 員 件 名	議 員							議決状況
		田中道源	鈴木茂孝	小林克己	深澤守	武田勝彦	高柳孝博	土屋清武	
議案第56号	専決処分の承認を求めることについて(令和3年度松崎町一般会計補正予算(第5号))	○	○	○	○	○	○	○	承認
議案第57号	専決処分の承認を求めることについて(令和3年度松崎町一般会計補正予算(第6号))	○	○	○	○	○	○	○	承認
議案第58号	専決処分の承認を求めることについて(令和3年度松崎町一般会計補正予算(第7号))	○	○	○	○	○	○	○	承認
議案第59号	松崎町廃棄物処理施設周辺整備基金の設置、管理及び処分に関する条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
議案第60号	松崎町国民健康保険条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
議案第61号	松崎町消防団条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
議案第62号	令和3年度松崎町一般会計補正予算(第8号)について	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
議案第66号	令和3年度松崎町一般会計補正予算(第9号)について	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
議案第63号	令和3年度松崎町水道事業会計補正予算(第1号)について	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
議案第64号	令和3年度松崎町温泉事業会計補正予算(第1号)について	○	○	○	○	○	○	○	原案可決
議案第65号	固定資産評価審査委員会委員の選任について	○	○	○	○	○	○	○	同意

※賛成：○ 反対：×

町政を問う

問 公約の重点施策は

答 具体策は総合計画で



高柳孝博議員



問 町長の重点施策は。

答 (町長)

防災、観光、教育、福祉、医療、子育てを重点に、総合計画で施策を検討していく。

問 副町長への特命は。

答 (町長)

防災と観光、教育、福祉と医療、子育てなどに、大いに力を発揮していただく。

問 岩科診療所開設の件で町長は「条例では決ま

るようにヘリポートの整備などの救急医療体制の整備など、別の角度からも検討する必要がある。

問 岩科診療所について、総合計画委員会、行政調査委員会で審議後に議会で議決し、住民に公布されているが、今後、町の意思決定はどうするか。

答 それを覆すことになるかと、議決そのものがおかしいことにならないか。

答 (町長)

ルールを引かれたからそのまま進めるといった昔の箱物行政ではなく、今の時代に合った行政の進め方をしていかなければならないと考える。

今ある診療所がなくなるかもしれない中で、本当に必要なものの議論が要するという話である。

問 プレミアム券、買物支援タクシーなどの施策を継続するか。

答 (町長)

プレミアム券は商工会

と相談する。買物支援は、高齢者の外出機会を増やすことにもなり、自主運行バスなど町全体の公共交通のあり方を検討する。

問 新しいまちづくりは

答 住民などの意見反映する

問 新しいまちづくりは。

答 (町長)

総合計画策定で、住民へのアンケート、関係団

体とのヒアリング、現計画の事業評価などを行い、方針や施策を検討する。

問 教育支援は

答 実態把握と連携で

問 ヤングケアラー、貧困児童、共働き世代へのさらなる支援の考えは。

答 (教育長)

実態把握に庁内の各部署と情報交換をして、連携により対応していく。



診療室 (イメージ)



職員研修の様子



小林 克己 議員



問 風通しの良い組織改革は

答 リーダーとして当然

問 新聞記事に「職員の意識向上に努め、信頼される役場にする」とある。風通しの良い組織改革が必要と思うが、町長の考えを問う。

答 (町長)

職場内の良好な人間関係を築き、風通しの良い組織とすることは、リーダーとして当然のことです。そのためには職員との対話が重要であると考えます。

具体的には、今後、課題ごとや年代別に職員との意見交換の場を設けていきたい。私のまちづくりの基本方針や考え方をしっかりと伝えるとともに、職員の考えもしっかりと聞き取り、全職員が方向性を確認し、共通認識のもとまちづくりに取り組んでいく。

問 今後、女性課長の誕生の可能性はあるか。

答 (町長)

ジェンダーフリーという社会の流れの中、性別

にとらわられることなく、役職に就くことは当然である。男女共同参画社会からもこの先の重要な課題として捉えている。

問 フェリーの課題は

答 2点ある

問 駿河湾フェリーの新港トライアルで得られた課題はなにか。

答 (町長)

一つは湾内の堆積土砂である。二つ目は、港に車両が乗り降りする際のゲートの角度が急であったということである。今後も実証実験を行い、問題解決に向けて取り組むことになっている。

問 配湯戸数加入対策は

答 期間限定加入権で

問 配湯戸数、配湯口数を増やすためにはどのような対策をしたのか。

答 (町長)

平成27年度から期間を限定した加入権を創設し

たが、開始時に2件の加入があったが、それ以後新規申し込みはない。

また、温泉デリバリーを平成29年度から行い、23件へ配達したが、新規加入には至っていない。

問 加入金は現行1口あたり営業用330万円、家用200万円である。

答 (町長)

例えば、1口を分割したり、使用料を週単位や日割り計算する短期利用メニューを設定するなど申し込みやすくすれば、ワーケーションなどで温泉の使用が増えるのではないかと考えています。

答 (生活環境課長)

現行制度は、公営企業委員会などで検討した結果を踏まえ、既存加入者とのバランスを考慮した中で継続的に安定的な収入を得て、将来への整備を図るために設定したものである。このため現時点では見直す考えはない。

問 岩科診療所の今後は

答 課題を把握し見直す



鈴木茂孝議員



問 診療所計画について必要性や建設場所について見直すのか。

答 (町長)

地域の意見をくみ取り、診療所が本来に必要なのか、場所はどこがよいのか、課題をしっかりと把握して見直していく。

問 計画を見直す理由や今後どのような形で医療を担保していくかについて説明する必要があると思うが、説明会を開くつもりはあるか。

答 (町長) 説明会などが必要と判断すれば検討していきたい。

問 地域の公民館に医師が月に1回健康相談に回るような形での地域医療は検討できないか。

答 (町長)

地域にとって非常に心強い方策だと思う。議論をしながら進めていきたい。

問 関係人口の増加は

答 事業の実施を検討

問 首都圏で活躍する松崎出身者や松崎に興味のある方に町の現状を知ってもらい、つながりを作るために、東京で「松崎会」を開催してはどうか。

答 (町長)

近隣市町や姉妹都市の帯広市でも同様なことを行っており、検討したい。

問 賀茂地域の方々の松崎への往来を促すきっかけとして、町営温泉依田之庄を町民料金で利用できるようにしてはどうか。

答 (町長)

賀茂地域の人を動かすことは地域の活性化に非常に有効と考えているが、温泉料金については議論が必要と考えている。

問 児童のコロナ対策は

答 柔軟に考えていく

問 大人は飲食の制限が

緩和されているが、児童の給食では依然として「前を向いて黙食」である。大人の責任回避の保身の考え方が、子どもたちに多くの犠牲を強いる状況になっていいるのではないか。小さい町の利点を生かして状況を見ながら臨機応変にできないのか。

答 (町長)

簡単に判断できるものではないが、しっかりと判断基準を議論しながら子どもたちのことを第一に考えて進めていく。



見直しが検討される岩科診療所計画

問 子どもたちがマスクをすることによりお互いの表情が見えず、コミュニケーションの構築に影響があると言われている。透明なマスクやアクリル板を支給してはどうか。

答 (教育長)

新種株が目玉されている中で、表情が見えることと安心安全の両方の観点から考えていく必要がある。学校関係者、一部生徒たちにも透明なフェイスガードを試すなどして、現場の意見を聞いて給食や部活動をどうするか考えていきたい。



3月上旬に咲く小杉原の桜



武田勝彦議員



問 桜の名所で観光を活性化

答 ぜひ、進めたい

問 那賀川沿いの桜並木は、河川法が改正され堤防には植えられなくなったが、代替地は検討しているか。

答 (町長)

牛原山を桜の名所にしたいと思っている。2年前から松小の卒業記念としてソメイヨシノの植樹を始めている。

問 河津町の河津桜まつりは、多い年で観光客100万人、経済効果300億円とも言われている。松崎町も桜で観光を活性化させてはどうか。

松崎町は桜葉産業で大島桜の苗作りを行っている。その苗木にいろいろな種類の桜を接木すれば、コストを掛けずに大量の苗木を作ることができる。この自前の苗木を使って次のような桜の名所づくりをしてはどうか。

【案①】 富士山や海に見える場所に河津桜を植えて河津町や南伊豆町とは違った桜の名所にすれば

河津桜まつりの観光客が回って来るのではないかと。また、土肥桜も植えれば土肥からの観光客も誘客できるのではないかと。

【案②】 桜の苗木を希望者に配布し、庭、空き地、耕作放棄地などに植えてもらってはどうか。町の景色が一変するのではないかと。

【案③】 小杉原に3月上旬頃に咲く桜と3月中旬頃に咲く桜がある。この桜を「桜の園芸品種認定制度」に申請すれば松崎桜と認定される可能性がある。

この桜を現在造成中の鮎川地区に植えて桜の名所にするにはどうか。

土肥桜や河津桜も植えれば、1月中旬から4月中旬まで長い間咲き続けるため、3カ月間桜まつりができるようにする。

答 (町長)

次世代に桜を見せるため、場所などさまざまなことを検討しなければならぬが、ぜひ進めたい。

鮎川地区は、今はつきり言えないが、植樹できそうな場所があるので検討材料にしたい。

問 花畑の経済効果は

答 経済効果はある

問 「田んぼを使った花畑」は経済波及効果が期待できないとの理由で中止したが効果はなかったのか。

答 (町長)

町のPRにも大きく貢献し、また、宿泊や飲食、お土産購入などによる地域経済効果はあると思っている。

問 「田んぼを使った花畑」は民間の花畑実行委員会が引き継いでいるが

観光協会に事業全てを委託することはできないのか。

答 (町長)

町と役割分担をして官民協働でやっていきたい。

問 中小企業振興について

答 大変重要である



田中道源議員



討していきたい。

問 観光PRの動画作成をする予定はあるか。

答 (町長)

観光協会のHPに集約することが望ましいと考えている。観光協会に観光振興対策特別事業の補助金として、400万円の補助金を交付している。それを動画作成に活用していただきたい。

問 役場職員の働き方を見直し、コロナ感染に備える予定はあるか。

答 (町長)

国において、自治体DX推進計画が示されている。デジタル技術などを活用し、業務効率化を図り行政サービスの向上させる必要がある。専門的な技術を持つコンサルも含め、外部人材の活用や、職員の育成などの事業費にコロナ対策臨時交付金を充てることを検討していきたい。

問 自治体DX推進計画

を進めることで業務量の可視化を図ることができ、職員の負担軽減につながる提案をする企業があるが、相談してはどうか。

答 (町長)

提案を踏まえた上で、県やデジタル関係の業者に協力を仰ぎ、情報を見極めながら進めていきたい。

問 小中学校のオンライン

ン事業のために技術者を雇う予定はあるか。

答 (教育長)

国は、GIGAスクール運営支援センターを設置し、各県にICT機器のトラブル対応、端末設定方法の問い合わせ、教職員やICT支援人材の育成のための研修を行うサポーターを現地に派遣するための準備をしている。今後はこれらを利用していきたい。

問 町をあげて中小企業を振興させていこうという指針となる中小企業、小規模企業振興条例を定める予定はあるか。

答 (町長)

中小企業や小規模企業者の地域に果たす役割の重要性を考え、ぜひ制定の方向で進めていきたい。

問 条例制定をどのように進めて行くつもりか。

答 (町長)

商工会からの強い要望がある。3月定例議会に

上程したいと考えている。

問 追加交付金の用途は

答 公平に事業を検討

問 これまでのプレミア

ム商品券は一部の方には恩恵がなかったと考える。全町民に等しく機会が得られるような形で事業を進められないか。

答 (町長)

制度の面で考慮すべき点はあるが、隠れ貧困の問題なども鑑み、皆さんの知恵を拝借しながら検



条例制定が期待される中小企業振興



2030松崎プロジェクト中間発表会の様子



深澤 守議員



問 町民との対話について

答 積極的に意見交換を

問 選挙公約に、「町民の皆さまと対話し町政運営をしていく」とあるが、町民との対話をどのような形で実行していくのか。

答 (町長)

町民との対話を通じて私の考え方をしっかりとお伝えするとともに、さまざまな声に真摯に向き合い、共通認識を持つて、協働でまちづくりを進めていくことが重要であると考えている。

町民との対話を深めるため、ワークショップの開催をはじめ、地域で活動しているグループやまちづくり団体と積極的に意見交換をしていきたい。

問 施策を実行する上で、議会との十分な対話が必要だと思う。

スムーズな対話を進めるためには、どのような形で実行するのか。

答 (町長)
円滑な行政運営を行っていく上では、行政と議会が対等の立場に立ち、お互いに尊重しあい十分な議論対話を重ねる必要がある。

答 (町長)

全員協議会や議会で説明したからそれで良いということではなく、勉強会などを踏まえ、日頃から十分なコミュニケーションをとり議論を深め、合意形成を図っていききたい。

問 総合計画策定は

答 新しいコンセプトで

問 総合計画の策定は今までのコンセプトで策定するのか、それとも新しいコンセプトで策定するのか。

答 (町長)

住民アンケートや、関係団体へのヒアリング、現計画の事業評価などを踏まえて、方針や政策などを検討していくことになるので、新しいコンセ

プトに基づいて総合計画を策定していく。

問 総合計画を策定するのに、2030松崎プロジェクトを組み込む考えはあるのか。

答 (町長)

2030松崎プロジェクトについては、観光協会、伊豆半島ジオガイド協会、静岡大学といった産官学が連携し、中学生をはじめ多様な方々に参加してもらい、2030年に向けて持続可能なまちづくりを目指しているもの。

このプロジェクトでは、13のゴールにむけてそれぞれのチームと、2つのスタディグループで活動をし始めている。その活動の中で出た意見については、団体、住民の意見としてしっかりと総合計画に反映していきたいと考えている。

次の定例会は、3月2日(水)からの予定です。

議会のらごき

10月

- 7日 広報編集委員会
- 19日 広報編集委員会
- 20日 静岡県町村議会議長会定期総会（静岡市）
- 28日 議会だより133号発行

11月

- 12日 議会全員協議会
- 15日 全国過疎地域連盟定期総会（東京）
- 28日 松崎町長選挙および
松崎町議会議員補欠選挙

12月

- 8日 議会全員協議会
- 14日 議会全員協議会
- 16日 議会運営委員会・広報編集委員会
- 20日 西豆衛生プラント組合議会定例会
- 24～27日 第4回定例会

表紙の写真「岩科大峠からの富士山」は、文化協会写真部より提供。



この人に
聞きました③①
農業振興会 後育部会長
伴 高志さん

町内で活動している皆さんを紹介するコーナーです。今回は、農業振興会後継者育成部会（後育部）会長の伴さんにお話を伺いました。

○後育部会の活動内容についてお伺いします。
後育部会は、農業の後継者の育成と農家の所得の増加を目標に活動しています。
後育部会が松崎の農作物をPRしていくために、主に力を入れているのは、

イベントなどの出店で

さらに最近では、松崎のお米を使った地ビールの開発にも取り組んでおり、西伊豆の夕陽のイメージをラベルにした「西伊豆サンセットビール」を販売して好評を得ています。

○新規就農者へのPR活動はなにかされていますか。
ここ2年ぐらいは、コロナの関係もあり減少し

ています。

ていますが、新規就農希望者への農相談も随時行っています。
耕作放棄地が増えている
松崎の農業の魅力
を伝えていきたいと考えています。

○今後の活動の展開は。
早くコロナが収束し、町のイベントと一体となった農業イベント的なものができたら良いなと思います。

（聞き手 編集委員長）

発行責任者

議長 渡辺文彦

編集委員長

深澤 守

編集委員

田中道源
鈴木茂孝
小林克己
武田勝彦
高柳孝博
土屋清武

海鳴り

12月議会において、新町長は「新しい松崎」の出発点にしたいとの所信表明をされ、町民、議会に理解・協力を求めました。高齢化が進む当町においては、町の持続可能性を担保できる施策に期待したいと思います。

さて12月議会では、前町長の進めた「岩科診療所」について一般質問があり、町長は選挙での公約で「見直し」を表明した経緯より「箱ものとしての診療所は必要か？」と答弁されました。この件について紆余曲折はあったものの、議会は令和5年4月開設で合意しております。

新町長が、「見直す」とする内容について、早期に町民、議会に説明を求めるとともに、町長の住民の声を聞く対応に期待します。

（議長）